

オレンジカフェ静岡

5月16日 午後2時～4時 オンラインで行います



静岡県出身。地域史の研究に取り組み、駿府博物館「短期歴史講座」等において講師を務める。静岡新聞社から渋沢栄一と静岡に関する著書を出版予定。

三二講話

渋沢栄一が静岡で過ごした十ヶ月

岡村 龍男 氏

静岡県近代史研究会幹事
豊橋市中央図書館学芸員

今年の大河ドラマの主人公である渋沢栄一は、明治時代の初めに静岡藩士として約十ヶ月を静岡の地で過ごしました。この十ヶ月間の間に渋沢が得た経験が、後に日本資本主義の父と呼ばれるようになる渋沢の飛躍のきっかけになりました。渋沢自身も静岡は「日本資本主義の策源地（原点）」であり、渋沢が静岡で試みた新しい商売の仕組みは、「日本の商業維新」を成し遂げるための第一歩であったと後に振り返っています。

一方で、渋沢が下した静岡にとっては衝撃的

な決断があったことが新たに分かってきました。それは、渋沢が静岡の目玉商品として力を入れて進めていくべき産業として、茶業ではなく養蚕を推していることとしていたという事実です。今回のお話は、何故渋沢がお茶よりも養蚕を優先したのか、その決断の裏側も紹介したいと思います。

五月のオンラインのための講習会

今年も先月に引き続き、オンライン講習会を次の日程で開きます。参加するには、パソコン（ネット接続済）、タブレット、スマホのいずれでも可能です。当日お使いになる予定の機器をお持ちください。オンラインは難しいと思っている方、講習を受けたけれど、音声でなかったり繋がらなかったりのトラブルでお困りの方、何度でも大歓迎です。

・五月十四日（金）午後二時～三時半

・場所 城東コミュニティプラザ HapiSpo

お申し込みは、事前に裏面に記載されたメールか電話でお願いします。

オンライン・カフェ参加の申し込み

五月十六日(日)二時〜四時のオンライン・カフェ参加のための情報は、これまで参加された方には、遅くとも前日までにお送りします(申し込みの必要はありません)。オンライン・カフェにこれまで参加されたことのない方は、十四日(金)までに下記のメールアドレスまでお申し込みください。

専門職に相談ができます

オンライン・カフェには、毎回、ケアマネジャー、看護師、社会福祉士、介護福祉士等の介護・

医療の専門家が参加しています。相談なりたいことがありましたら、オンラインの中で、他の人とは別に対一でお話しさせていただきます。ご希望の方はカフェで申し込んでください。相談の内容を秘密にすることを約束します。

お便りをお寄せください

近況、今興味をお持ちのこと、コロナに思うことなど、皆さまからのお便りをお待ちしています。

お便りの郵送先

420-0071 静岡市葵区一番町50番地
静岡市番町市民活動センター内
NPO法人ヒューマン・ケア支援機構

新しい1万円札は渋沢栄一!

3年後に発行が予定されている1万円札の顔は渋沢栄一です。初めて1万円札が発行されたのは1958年(戦後13年目の昭和33年)で、採用されたのは聖徳太子でした。現在の小中学校の教科書では厩戸皇子(うまやどのみこ)と呼ばれるこの人物にはさまざまな伝説が存在していますが、「お札の顔」に採用された回数は、明治時代から何と7回。この伝説的な人物の1万円札は、日本の高度経済成長とともに順調に流通枚数を増やしていったそうです。

次に1万円札に採用されたのは『学問のすすめ』の著者で、慶應義塾の創始者でもある福澤諭吉です。1984年(昭和59年)から現在に至る1万円の顔であり、現在の若い世代にとっての1万円札は、彼以外にありません。

そして3年後に登場するのが渋沢栄一です。「日本資本主義の父」と称され、特に明治時代において八面六臂の活躍をみせた彼の生涯は、現在、大河ドラマ化されていて、ますます注目を集めそうです。移り変わる1万円札の顔。押し寄せるキャッシュレスの波。私たちと1万円札の付き合いは、どのように移り変わってゆくのでしょうか。(某ボランティア記)



会場 静岡市葵区城東町 34-14

城東コミュニティプラザ HapiSpo (ハピスポデイ和かな)

会場提供 社会福祉法人静和会

共催

NPO 法人ヒューマン・ケア支援機構

社会福祉法人静和会

連絡先 ☎ 090-5620-6070

✉ orange@npo-humancare.jp

五月のオンライン・カフェのプログラム

一、ミニ講話

岡村龍男氏

二、希望するグループで話し合い

① 認知症について

② 認知症のご家族

③ 上藤さんに絵本の朗読を学ぶ

④ 人生の先輩の話を聴く

⑤ 相談(1対1でも)

⑥ その他

当日までに、希望するグループを考えておいてください。